

豊洲市場における地下水等管理に関する協議会

座長 岡山大学名誉教授 西垣 誠
委員 元富山大学大学院教授 丸茂 克美
委員 産業技術総合研究所主任研究員 小野 恭子

空気測定結果及び地下水質測定結果（濃度確認・全体確認モニタリング結果）について

1. 対象

空 気：令和2年12月、令和3年1月、2月採取分

地下水質：令和3年2月採取分

2. 空気測定結果について

- ① ベンゼンの測定結果については、建物1階部分は $0.0005\sim 0.0036\text{mg}/\text{m}^3$ 、屋外は $0.0005\sim 0.0017\text{mg}/\text{m}^3$ 、地下ピット内は $0.0004\sim 0.0016$ であった。

水銀の測定結果については、全ての箇所では不検出($0.004\mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満)であった。

シアン物の測定結果については、全ての箇所では不検出($0.002\text{mg}/\text{m}^3$ 未満)であった。

- ② ベンゼンの大気環境基準（国が定めた人の健康を保護する上で維持することが望ましい基準）は、「1年平均値が $0.003\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること」であり、不検出（ $0.0003\text{mg}/\text{m}^3$ 未満）を $0.0003\text{mg}/\text{m}^3$ として計算した場合、建物1階については、1年平均値は、2月時点で加工パッケージ棟で $0.0010\text{mg}/\text{m}^3$ 、青果棟及び水産仲卸売場棟で $0.0011\text{mg}/\text{m}^3$ 、水産卸売場棟で $0.0012\text{mg}/\text{m}^3$ 、補助315号線連絡通路内で $0.0013\text{mg}/\text{m}^3$ となっている。屋外については、同じく1年平均値は、2月時点で6街区、7街区及び補助315号線連絡通路横で $0.0010\text{mg}/\text{m}^3$ 、5街区で $0.0011\text{mg}/\text{m}^3$ となっている。地下ピット内については、同じく1年平均値は、2月時点で水産卸売場棟で $0.0007\text{mg}/\text{m}^3$ 、青果棟、水産仲卸売場棟及び加工パッケージ棟で $0.0009\text{mg}/\text{m}^3$ となっている。このことから、いずれも大気環境基準に適合していることが確認できる。

補助315号線連絡通路内の1月採取分においては、 $0.0036\text{mg}/\text{m}^3$ のベンゼンが測定されたが、当該箇所の1年平均値は、12月時点で $0.0011\text{mg}/\text{m}^3$ 、1月時点で $0.0014\text{mg}/\text{m}^3$ 、2月時点で $0.0013\text{mg}/\text{m}^3$ と大気環境基準値（1年平均値が $0.003\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること）を下回っており、安全性に問題はない。また、一般的に、環境中濃度は様々な要因により変動するものであるため、その原因は特定できないが、近接する屋外の測定位置（補助315号線連絡通路横）ではベンゼン濃度が低いこと、補助315号線連絡通路は、密閉構造でかつ地表面との間に空間があることから、地下水の影響とは考えられない。

- ③ 水銀の有害大気汚染物質に係る指針値（平成15年9月30日環管総発030930004号）は、「1年平均値が $0.04\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること」である。不検出（ $0.004\mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満）を $0.004\mu\text{g}/\text{m}^3$ として計算した場合、昨年3月からの1年平均値が、全ての箇所では $0.004\mu\text{g}/\text{m}^3$ となっており、いずれも有害大気汚染物質に係る指針値に適合している。

以上の結果から、建物1階、屋外及び地下ピット内のいずれの空気についても、前回の調査結果(12月25日公表)と同様に、科学的な視点から安全は確保された状態にあると考えられる。

3. 地下水質モニタリング調査結果

前回の調査結果（12月25日公表）と比べ、濃度が上昇傾向を示した地点や低下傾向を示した地点も存在しているが、全体的に見れば、大きく汚染状況が変化した傾向は確認できない。

以上